

# TRICOLOR

## 神奈川県総合型地域スポーツ クラブ交流会について

今回で第3回になります。第1回はフットサルとソフトバレーに当時の小5が出場。フットサルは最下位でしたが、ソフトバレーで優勝しました。去年は小4がサッカーの交流戦に出場。対抗戦方式でしたので順位はつけませんでした。また、お出でいただいた保護者の皆様と、ユニカールヤスポーツ吹矢、トランポリンなどの体験をして楽しみました。

さて、今年の内容を大幅に変更し、県内37の総合型クラブ対抗戦方式を採用。各種目の4位までにポイントが与えられ、総合ポイントで優勝クラブを決めます。サッカーには小4が出場しますが、他にもたくさんの種目があります。参加申込方法等の詳細は後日掲示板やメールでご案内しますので、皆様奮ってご参加下さい。栄えある初代チャンピオンめざし頑張りましょう！

■期日:11/30(日) 10:00-15:00

■会場:県立体育センター(藤沢市善行・無料駐車場有)

■競技種目:対象

\*サッカー:小4以下

\*スナッグゴルフ:小学生以上

※ゴルフの基本を学ぶために開発され、ティーショットを打ち、アプローチして、パットします。かなり本格的なゴルフに感覚が近いそうです。

\*ソフトバレー(4人制):小学生の部・年齢フリーの部の2部門

\*ユニカール:小学生以上

\*バドミントン(ダブルス):小学生以上

\*卓球(ダブルス):小学生以上

\*スポーツ吹矢:小学生以上

■体験種目:対象

\*フラダンス:中学生以上

\*ヨーガ:中学生以上

## 大会・公式戦結果

### Top

【県社会人リーグ(KSL-1)】

▼第11(最終)節

vs 東海 FC Wings 0-0△

### Junior Youth

### 【横浜市旗杯区予選】

▼2回戦

vs 六角橋中 0-1●

### 【2008/2009 県 U-15 リーグ】

vs 金沢中 1-2●

### 小6

#### 【国際チビッツ】

vs 黒滝 SC 2-0○

vs 横浜深園 SC 0-3●

vs 横浜栄コラッジオ 2-0○

### 小5

#### 【潮風カップ】

▼グループリーグ

vs 初声ジュニア FC 1-2●

vs 東海プレッツ FC 0-0△

▼順位決定戦

vs FC50.4 1-4●

6チーム中第4位

### 小4

#### 【国際チビッツ】

<ブルー(A)>

vs FC 都筑 SS 0-4●

vs 横浜 GSFC 0-1●

vs 菊名 SC 0-0△

vs FC 霧ヶ丘 4-0○

7チーム中第5位

<ブルー(B)>

vs FC サンダース 7-0○

vs 六ツ川 SC 0-2●

vs 横浜キッカーズ 4-2○

vs 横浜 F マリノス Pr. 0-8●

vs 和泉 FC-B 8-1○

6チーム中第3位

### 小3

#### 【三ツ池公園少年少女サッカー大会】

▼グループリーグ

vs KAZU SC 0-5●

vs 篠原つばめ SC 5-2○

vs 荻野 SSS 0-5●

▼9-12 位決定戦

vs J-SPORTS FC 1-2●

vs しらゆり 0-3●

16チーム中第12位

### 小2

#### 【国際チビッツ】

vs エストレーラ FC-A 0-11●

vs 原 FC-B 0-7●

vs 西谷 FC 6-0○

vsFC 南台-B	2-1○
vs 山田若竹 SC	0-7●
vs バディー-SC-A	0-18●
7 チーム中第 5 位	

## Papas

### ☆マスターズリーグ

#### 【県マスターズリーグ】

vs 川崎	0-5●
vs 県庁	0-4●
vs 港北 FC	0-5■

### ☆Rec

#### 【県シニアリーグ四十雀 4 部】

vs 川崎	0-5●
vsTFC	2-2△

### ☆Comp

#### 【県シニアリーグ四十雀 2 部】

vs 茅ヶ崎クレインズ	0-4●
-------------	------

### ☆O-40

#### 【市シニアマスターズ】

vs 三春台	3-0○
--------	------

## 今、グラウンドでは...

### Top

#### 【KSL-1 最終節】

Top チームは 10 月 12 日(日)に県社会人リーグ 1 部(KSL-1)最終節×東海 FC Wings 戦を行い、今シーズンの県リーグ全日程が終了しました。内容は 2 部に降格が決まり開き直った相手に終始押される展開になり、こちら引き分け以上で残留が決まるということでリスクを避けなければいけなかったことも重なって 0-0 で試合終了。決定力不足や、相手に合わせて受け手になってしまいボールを保持できない時間が長くなり主導権を握れない苦しい試合になりました。唯一よかったのは負けなかったことで残留を決めたことでしょうか。

#### 【2008 県リーグ総括】

今シーズンは 4 勝 5 敗 2 分第 9 位勝点 14 総得点 7 総失点 15 得失点差 -8 という数字でシーズンを終了しました。

今シーズンは開幕 2 連勝という最高のスタートを切ったのに終わって見れば 9 位という残念なシーズンになってしまいました。勝率は 5 割に届かず、また、得点は 11 試合中 7、失点 15 という数字上は良くはありませんが、見方を変えてみると勝った試合

はすべて 1-0 であり、先制した試合は負けていません。また、勝った試合含め完封した試合数が 5 試合、これはリーグ 1 の数字です。勝ち試合は 4 ですが去年より守備は安定し、また苦しい試合を 1 点取って勝つ勝負強さはついたと思います。

しかしシーズン通してこのパターンを続けられずムラがあったことも確かです。先制された試合はすべて負け、得点 7 はリーグ 3 番目に少ない数字です。決定力不足、先制されると追いつけない逆境に弱いという先程の先制したときの勝負強さと矛盾があるところにムラがあったと言えます。この決定力不足、負けている時に追いつけない理由は単に攻撃の選手の問題だけでなく、チーム全体が焦ってロングボールを多用する雑なサッカーに終始してしまったことが考えられます。前にも書きましたが自分たちの確固たるスタイルがない、攻撃の共通理解がないことが課題です。課題を練習で克服し、来シーズンはボールをもっと大事にする、自分たちが常に主導権を握るポゼッションサッカーを目指して行きたいところです！また一人一人がもっと食欲に勝ちを目指す姿勢をもつ！この数字では表せないメンタル面の改革も必要！

最後になりましたが今シーズンも試合、練習を観に来て下さった方々をはじめ、たくさんの応援ありがとうございました！今後は、横浜市民大会もありますので、または非 Top チームの試合を応援に来てください！よろしくお願いします！(樋口 圭太)

#### 【選手紹介④】



Top チーム選手紹介第 4 回目は、ジュニアユース出身の背番号 26 番魅惑のスピードスター富山選手です。FW として俊敏な動きから急加速して相手を振り切るスピードはもとより、9 月 28 日の県リーグ港北 FC 戦では一人少ない状況の中、途中出場ながら MF として相手の中盤を翻弄し、引き分けに持ち込んだ試合での活躍は記憶に新しいところです。167 センチと小柄ながら、大柄な

相手の DF と対等に戦っている姿は、ジュニア世代の選手のお手本にもなると思います。これからの富山選手の活躍にご期待ください。

(中本 洋一)

#### 富山選手からのコメント

「MF としてキラーパスを出すのも好きです。しかし、これからはもっと練習して、スピードに磨きをかけて、相手を振り切り得点をあげチームのために貢献したいと思っています。これからも応援よろしく願いいたします。」

### Youth

毎年 10 月は、中間テスト、修学旅行、文化祭と学校行事が目白押しのため、まづまとまってトレーニングすることができません。来られる選手が日替わりになります。そんな中だからこそ、ひたすら同じ内容のトレーニングを行なっています。

基本は「周りを見て考えてプレーすることです。あまりにも選択肢が多すぎると判断自体に時間がかかりますが、決してそんな難しいことをやっているわけではありません。まずは相手選手の動きを見て、どうしたら相手が困るのか、といったことから始めています。

トレーニングではだいぶ落ち着いてプレーできるようになってきた感があります。あとは試合になったときに、どの程度できるかが楽しみです。(内田 佳彦)

### Junior Youth

県クラブジュニアユース(U-15)リーグの残り 2 試合の日程が決まりました。

3 年生にとって中学生年代最後の公式戦が「とうとう」やってきてしまいます。というのは、私としては「もっと時間が欲しい」と感じているからです。今の 3 年生は 8 名中 7 名が小学生時からの生え抜きです。個々を見れば、小学 6 年生の時と比べ、確実にその成長ぶりを感じさせてくれます。

しかし、ジュニアユースはユース年代への準備期間であることを考えると、まだまだ足りないものがあります。この時期に、「技術」や「判断」のベースをもっともって上げておかなければ、ユース年代で苦勞することは間違いないでしょう。選手にとっては単なる通過点に過ぎない 2 試合です。

だからこそ、勝ち負けだけではなく、自分の技術や判断を大切に今後につながる楽しいサッカーを見せて欲しいと思います。

(二木 昭)

## 小 6

### 【JYに向けた練習】

最近、練習を観に来ていただいている保護者の方々には、やっている練習のルールがわからないことがあるかもしれません。ですので、今回は簡単に説明いたします。

現在メインでやっている練習は2チームによるシュートゲームとボールポジションの融合です。

◆6対6～10対10くらいを目安で、ハーフコートを使用しています。

◆コート両サイドそれぞれに①「得点エリア」A、Bを設けます。(1カ所毎、計2ヶ所)

◆コートのセンターサークル付近に②「繋ぎエリア」を1カ所設けます。

◆ゴールに GK を配置し、③「ペナルティエリア」を設けます。

これで会場の準備は完了です。

そしてルールはと言うと、

◆①エリアでパスを受けるか、シュートでゴールを決めたら1点が入ります

◆①エリア A で受けた(得点)後、同じ①エリア A で受けても得点になりません。

◆①エリア A で受けた(得点)後、①エリア B でパスを受け得点したい場合は、②ゾーン又③エリアを経由しないと得点になりません。

◆シュートは③エリアの外からしか打てません。

◆得点後も引き続き止まらずポジションを続け、得点を狙います。

と言ったものです。

この練習での狙いをあげると

◆ボールを簡単に失わないこと(チームによるポジション)

◆シュートを狙う意識をつけること(優先順位、最良判断)

◆狭いところから広いところへ早く展開する為、どこにサポートすればいいかと言うこと

◆ダメだったら落ち着いて繋ぐということ

◆複数でボールを奪いに行く。激しいプレ

スをすること。

◆攻守の切替え、判断のスピードアップ

◆正確な技術(止める、蹴る、運ぶ)が必要であることを自分で感じさせること

と多くの要素が織り込まれています。

選手は常に考え、判断しなければいけないメニューです。

色々な目的を一つの練習に入れることで、試合で起こり得る状況を獲得しようというわけです。こういった練習を続けることで、判断力は向上して行き、また、選手たちは個人練習の大切さを知ることとなります。中学生ではこういった訓練が必要になりますので、是非 JY に入ってスキルアップをして欲しいと考えています。(益子 伸孝)

## 小 5

先月号で、トレーニングセンター(TC)に入れる選手と入れない選手の分岐点としてまず考えられるのは、「メンタル面」とお話しさせていただきましたが、次に考えられるのは「技術」です。(技術にも色々なものがありますが、よく私が口にするのは「ボール扱いの技術」を指しています)

「技術無くしてサッカーはできない」と言っているほど重要なものだと思います。

技術レベルが高ければ、自ずとゆとりが生まれ、自ずと顔が上がり、広い視野を確保できるようになり、良いイメージ・判断ができるようになります。また、「スピード」や「体力」は年齢が上がれば衰えていきますが、「技術」は衰えることはありません。よく社会人のリーグ戦などで、若くてスピードのあるチームに、経験と高い技術を持った「おっさんチーム」が勝利してしまうことがあります。これは正しく「技術」の勝利だと思います。「技術」があれば、いくつになってもよりサッカーを楽しむことができますはずです。

「知識はいくらあっても困ることはない」とよく言いますがサッカーでは「技術はいくらあっても困ることはない」となるでしょう。

「技術」は簡単に、すぐに身に付くものではありません。日々努力し、時間がかかるものです。できないからといってすぐ諦めてしまうのではなく、根気よく努力し続けてください。その努力はいつか必ず報われます。

横浜 TC 担当者の方に質問したところ、

今回のセレクションに参加した人数は約560名。TCに入れた選手は25名(他に保留選手が20名)だそうです。また、入れた選手と入れなかった選手の違いをたずねたところ、ひとつ教えていただいたのは、選考基準を元に、「技術の中で特徴を重視した」とのことでした。「特徴」とは「個性」だと思いますが、「個性」とは何なのでしょう。か？<つづく>(高田 成典)

## 小 4

### 【国際チビッツ観戦記】

まずは、ボールを止める・蹴るという基本技術において、子供たち一人一人の成長ぶりを感じました。ペナルティエリア周辺からシュートを決めたり、局面を打開するパス・クリアーができるようになっていたからです。反面、相手のキック戦法に同調してしまい、あわてて蹴ってしまう場面もありました。少しでも早く自分からボールを離すことで「危険」を回避する、という考え方もあると思いますが、単に機械的に、条件反射的にボールを蹴るのではインテリジェンスのあるサッカーとは言えません。

次に、ゴールを決めた顔ぶれが(春のリーグ戦よりも)増えたことです。それは、個々のプレーヤーがそれだけシュートシーンに絡む動きが増えたことを意味していますし、そのプレーヤーを使おうとする味方プレーヤーの視野が広がったことも意味します。

サッカーの最大の楽しさは、個々のプレーヤーのアイデア・技術・判断力がどの局面でも優先され、同時に、味方のサポート・チームとしての連携が組み合わさってゴールを奪うことにあります。観戦された方はお気づきのことと思いますが、かながわクラブはポジションを固定しません。GKを除く7人全員が守備も攻撃も担当します。そのため、個々のプレーヤーにかかる負担はたとえ10分間といえども相当に重いものです。相手チームのコーチが試合前に「○○、お前はセンターバックだぞ、△△はフォワードの真中だ」と確認している場面を何度も見ました。もちろん、個人の特徴を最大限に活かすことは武器となりますし、一人のプレーヤーのために、他のプレーヤーが「黒子に徹する」ような試合運びをして、「絶対に負けられない戦

い」に勝利しなければならないケースはあると思います。でもそれは、プロ選手の「勝つこと」が最優先されるレベルでのことです。ゴールデン・エイジと呼ばれる10歳の子供たちには、アイデア・技術・判断力、言い換えれば、様々な局面でのアイデアとその中からどんなプレーを選択するか、その判断力と、それを表現するテクニックを身に付けることが最も重要なことです。そのための、全員守備・全員攻撃なのです。ボールを奪った(奪われた)瞬間に全員が攻撃(守備)への動き出しをする。ボールを持っているプレーヤーとボールを持たないで次の局面を予測して動き出すプレーヤーがいて、初めてチームとしての力が発揮されます。どこのポジションでもこなせるアイデア・技術・判断力を持つ必要性はここにあります。そんなプレーヤーが6年後の高校生世代になってから、自分の特徴を活かしたプレー、その時自分の所属するチームでの戦術、それぞれの試合での戦い方に順応してプレーできることが重要なことだと思います。

最後に、BチームのF・マリノスプライマリー戦(0-8)で感じたことです。無得点での大敗でしたが、個々の技術面ではそれほど大きな差は感じませんでした。相手が「蹴ってくるサッカー」ではなかったこともその要因の一つですが、なによりも、子供たちが普段港北小や大口台小で見せてくれるパフォーマンスができていたと思います。その意味では、確実に個々のレベルは上がっています。F・マリノスの選手が2本目からは「なりふり構わず」プレーしていたことが印象的です。彼らとの差は、ゴールを奪う方法のバリエーションをいくつも持っていて、しかも、チームとしてそのことが共通理解できている、という点でした。かながわクラブの子供たちがそのレベルに達するのも、そう遠い先のことではないと感じましたし、また楽しみにもしています。(浜野 正男)

保護者の皆様、大会中は朝早くからお弁当の準備等、いろいろとご協力いただきましてありがとうございました。また、審判をお手伝いいただきました二人のお父様、いつも快くお引き受けいただきましてありがとうございました。今大会は、Aチーム

が1勝4敗1分け、Bチームは3勝2敗でした。決勝トーナメント進出という目標は達成できませんでした。ゲームを通じて個々の成長とチームの方向性が間違っていないことを再確認することができ、次のステップに向けて課題を整理するという点において意味のある大会だったと思います。(鈴木 章弘)

### 小 3

#### 【大会を終えて】

三ッ池公園少年少女サッカー大会に参加しました。結果は、16チーム中12位という結果に終わりました。この大会には横浜市内の強豪チームに加え横浜市外の強豪チームも多く参加していました。かながわクラブの選手たちもがんばっていましたが、上位リーグの試合では、ドリブルをする時に顔がしっかり上がっている・早くプレッシャーをかける・状況判断が早いなど個人のレベルが高かったと思います。

今回勝てなかったチームに次は負けないように、その次は勝てるようにしようと選手たちと約束をしました。その時まで、坊主は勘弁してもらいましょう。(笑)

#### 【コミュニケーション】

子供たちとの共通の話題を作ろうと任天堂DSのポケモンを買ってみました。最初のうちは一人でクリアできていたのですが、ステージが進むに連れて一人でクリアできなくなっているのが、毎週日曜日は、サッカーは子供たちに教えていますが、ポケモンのすすめ方は子供たちに教えてもらっています。(丸山 祐人)

### 小 2

#### 【国チビ終了】

10月5日からの国際チビ子、結果は本号冒頭でもご案内の通り2勝4敗の勝点6(得点8・失点44・得失点差-36)で、グループ7チーム中5位で終了しました。保護者・関係者皆様の本当に温かい応援およびサポートに改めて感謝申し上げます。

#### 【試合経過】

今回の大会は、ボールコントロール・キックもしっかり出来る、パスの意識も持った「蹴ってこない」チームが多いグループだったこともあり、当に経験を積むのに最高の大会でした。

#### ◆初日

vs エストレーラ(A)0-11/vs 原FC(B)0-7

結果として点差のついた試合になりましたが、選手は皆あきらめずに最後までボールを追いかけました。場面々々では怖いくらい厳しい状況だったと思います。終了後悔しさに涙する子もいましたが、そのあきらめない気持ちが2日目につながりました。

#### ◆2日目

vs 西谷FC6-0/vsFC南台(B)2-1

初日同様に蹴ってこないチームとの対戦、選手は前日同様とにかくボールを追いかけ、「先にボールに触る、取られても取り返す」ことを繰り返した結果、勝利を掴むことができました。特に2試合目は追いついての逆転勝利、選手皆が「あきらめなければ必ず何か起きる」ことを見せてくれました。

この日のボールはうまかったです。

#### ◆3日目

vs 山田若竹SCO-7/vs パディーSC(A)0-18

メンバーが9名と少なかったこと、前日の勝利によりある種の達成感があったことから、結果として点差のついた試合になってしまいました。しかし、選手皆は最後まで走ることを止めずに頑張りました。繰り返しセンターサークルにボールを持って戻る選手皆からあきらめた姿がなかったこと、本当にうれしく思いました。

#### 【考える力】

今回は大差で勝ったり、負けたり、はたまた僅差で勝利したりと、内容も併せて本当にたくさんの経験を積むことができました。今後は、この経験も糧に次のステップに進みたいと思います。実は選手皆は今回負けてしまったチームとの差が何であるか、どこにあるのかに気がつきはじめています。どうすればよくなるかを「考える力」をつけてもらうために、今後もアドバイスと必要な技術を身につける練習を続けていきたいです。引続き保護者の皆様のサポートをお願い致します。(小野 津春)

### 幼児・小1

#### 【3連敗！監督更迭？】

先月に続いて今月も敗戦スタートでしたので、都合3連敗、しかも徹底的にやられたという感じで、プロなら間違いなく監督更迭でしょう。プロでなくとも非難轟々の嵐といった風情でしょうか。

では、いったい敗因は何かということから話を始めましょう。それは相手が強かったということに尽きます。相対的に見て、かながわクラブよりも強かったのです。具体的には蹴ること、走ること、試合に臨む気持ちに関して相手の方が勝っていました。特に失点が重なってくればくるほど集中力は途切れ、人数は相手よりも多く体力的には楽なはずなのに疲れたから休みみたいと言いつつ選手も増えてきては…。

今後は亀田三兄弟のように対戦相手をしっかりと吟味しながら、勝てる試合だけを選んで行うようにしないとイケないかもしれません(嘘です。全くの冗談です)。今後もやってくれる相手がいたら、これまでと同様、スケジュールの都合のつく限りお相手させていただきつづけています。

さて、勝敗は時の運ですし、負ければ終わりというトーナメントの戦いをしているわけでもありません。では実際に試合の無いときの活動では何をしているのかがとても大切です。試合で上手にできなかったことをそのままにせず、少しずつ上手にできるようにしましょう。ということで、次のように着手し始めています。

「蹴ること」に関しては、少しずつ意識を持たせた練習を始めています。始めに恐怖感(地面を蹴ってしまった時の痛さやつま先で蹴ってしまった時の痛さなど)、を与えては悪影響が後を引きまますので、導入は空中にあるボールに足の甲をミートする感覚を覚えさせます。常にボールにミートする場所は足の甲であることを徹底できたら、バウンドしたボールを蹴ってみます。上手に当たるようになったら地面において蹴らせます。今はこの段階です。

「走ること」に関しては、勿論単純な足の速さではありません。ボールを持って=ドリブルの速さになります。今はドリブルの姿勢に重点を置き、周囲を見回しながらドリブルができることとたくさんボールに触れること、言い換えると丁寧にボールを扱うドリブルを練習しています。スピードもあり、たくさんボールにも触れ、姿勢の良いドリブルが理想形です。神経系統の発達が著しい時期だからこそたくさんボールに触れる丁寧なドリブルの感覚を身につけて欲しいと思っています。

「戦う気持ち」に関しては、最も難しいところ。今回の幼児・小1のチームは優しくのんびり育った長男坊と雰囲気を感じ取りながら適当に手抜きを覚えた次男・三男坊とで構成されているように思います。これだけはなかなか練習でも身に付けさせにくいものです。理論で攻めても理解できません、精神論ではもっとチンプンカンプン、脅しが一番効くのですが…。少し時間がかかると覚悟を決めている今日この頃です。(佐藤 敏明)

## Papas

### 【シニアリーグ経過】

シニアの試合もう数試合を残すのみとなりました。四十雀4部のRecは11月1日現在で1勝8敗2分の14チーム中13位で、残り試合は平塚(14位)戦(11月2日)と足柄上(2位)戦(11月16日)が残っています。2勝以下のチームが6チームもあるという下位混戦の状態ですので、後1勝あげると10位に上がれるかもしれません。一つでも勝ち星を多く挙げたいところです。

四十雀2部のCompは、リーグ4位の茅ヶ崎に敗戦して、0勝7敗3分の最下位12位となり、リーグ2位の対横須賀戦を残して、3部への自動降格が確定しました。

両チームとも怪我などの故障者を多く抱えて、メンバー不足に苦しんでのシーズンでしたが、残り試合にベストを尽くしましょう。

### 【横浜市シニアマスターズ】

今年も三ツ沢球技場で行われる決勝・準決勝を目指して、横浜市シニアマスターズが10月26日から始まりました。初戦の三春台シニア戦は3-0と幸先の良いスタートが切れました。4チームで戦われる予選リーグは残り2試合(12/7 1/10)ですが、予選リーグ1位になりますと、2/1の準決勝、2/8の決勝と駒を進めることとなります。今年こそ三ツ沢球技場で試合ができるよう頑張りましょう。(茅野 英一)

## Mistral

10月12日(日)、川崎フロンターレ主催の「ザムスタカップ2008フットサル大会」に、ミストラル5名、助っ人4名で参加しました。21チーム5ブロックによるリーグ戦で、決

勝トーナメントには各ブロックから2チームのみの進出でしたが、残念ながら私たちはあがれませんでした。

しかし、負けてもフレンドリーマッチも組んでくれ、7分ハーフを4試合戦って来ました。

参加チームは、赤ちゃん連れの母親も多い若いチームばかりでしたが、試合内容は引き分け、0-1(負け)と大差ではなかったので帰りのファミレスでの話も盛り上がり、「またこのチームでコミュニケーションをとり、フットサルをやりたいね」と楽しい一時を過ごしてきました。

無心にボールを追いかけて汗をかくのが気持ちいいものですね。かながわクラブのお母さま方、気軽に一緒に楽しんでみませんか?(津久井 京子)

## ヨーガ

### 【またまたインド】

随分涼しくなりました。暑いのが大好きな私としては少し淋しい季節でもあります。

そこで!またまた行くことにしました!インド!

クラスをお休みさせていただかねばならず「え～?また～?」とのご意見をいただくかしらと思いきや、まったく逆でした。多くの方々からかけていただいた言葉は「また修行して面白い話題を仕入れてきてください。」でした。うれしいです。ありがたいです。感謝です。

ヨーガを始めてからうれしいこと、楽しいことが増えたように思います。そんなに生活が変わったわけでもないのですが…。物事とは捕らえ方次第なのかもしれません。

今回はインドの東部へ行ってきます。コルカタ(カルカッタ)を中心にヨーガ三昧の8日間を過ごして来ようと思っています。さてさて、どんな旅になるのでしょうか?いまからワクワクです。(伊藤 玲子)

## たわごと 理事長の戯言

### 【国際チビッツ】

今年もすべてのカテゴリーの応援に行かせていただきました。そろそろ悪名高い「内田が行くと負ける神話」などなくなっているだろうと思いつつも、実は内心おっか

なびっくりです。ジャージで行くよりは私服にしようか、やっぱり変装してこっそり見ようか、などなど結構真剣に考え、カテゴリーによっては変えてみたりもしました。

一番ハラハラしたのは小6でした。いつものように伸び伸びプレーできず危ない場面の連続です。それでもなんとか接戦をものにするのができたときには本当にほっとしてしまい、ある意味襦ぎを済ませたかのような気持ちになりました。

小2の会場には私服で行ってみました。こっそりゴール裏から見ているつもりでしたが、やっぱり子供たちと一緒に戦いたくなり、保護者の皆様の近くに行きました。取られても取られても、倒されても飛ばされても、決してあきらめずに相手に挑んでいく選手たちを見て感動しました。そんな選手たちを一生懸命応援してくださる皆様にも感動しました。

気がついたら18点取られていました。

でもそんなことよりも、もっと素晴らしいものを彼らから教えてもらいました。

今度はそれを、たくさんの選手たちに伝えて行こうと思うのでした。

神話は・・・

崩壊のはずです(たぶん)。(内田 佳彦)